

昭和47年に高瀬川が直轄管理となり今年で50年となりました。小川原湖周辺の自然環境や生業及びこれまでの事業の歩みを振り返るとともに、近年全国的に発生している大規模な豪雨災害を踏まえ、流域のあらゆる関係者が協働して流域全体で行う「流域治水」への転換を進める為に、地域の方々と今後の「流域治水」を考えるシンポジウムを開催しました。

- 日 時：令和4年11月7日(月)13:30-16:30
- 場 所：青森県東北町コミュニティセンター未来館
- 聴講者：130名 ➤ youtube視聴回数：122回（11/8時点）

パネルディスカッション

テーマ『気候変動を踏まえた高瀬川流域治水の実践に向けて』
 コーディネーター：八戸工業大学名誉教授 佐々木 幹夫 氏
 パネリスト：

- 国土交通省東北地方整備局河川部長 板屋 英治 氏
- NPO法人青森県防災士会上北支部長 芋田 廣治 氏
- 七戸町長 小又 勉 氏
- 東北町長 長久保 耕治 氏
- 気象予報士 奈良岡 希実子 氏
- 青森県県土整備部長 宮本 健也 氏



開会あいさつ



東北町長
長久保 耕治 氏

基調講演

『甚大化する気象災害に備える』
 気象予報士 奈良岡 希実子 氏



環境学習の取組紹介

東北町立甲地小学校での
 環境学習の取り組み
 教諭 西田 早苗 氏



高瀬川直轄管理 50年の歩み

高瀬川河川事務所長
齋藤 茂則 氏



流域治水の事例紹介

東北地方整備局
 河川部長 板屋 英治 氏



50年の歩みパネル展示



会場内の様子



参加者からの感想、意見

- ・気候変動により雨が増え、全国で水害が増加している為、対策が必要な事が分かった。
- ・各分野での取り組みを知ることができて、とても良かった。
- ・避難訓練が大事ではないかと改めて思った。
- ・住民アンケート調査結果で、住民の意識向上が必要だと思った。
- ・佐々木先生からの「自分の命は自分で守る」為に考えることも流域治水の取組みと改めて感じた。

高瀬川流域治水シンポジウム
～高瀬川直轄管理50年の歩みと流域治水の実践～

「防災に関するお考え」について
住民アンケート調査結果

- 本アンケート調査は、高瀬川（小川原湖）流域内にお住まいの方々を対象に、豪雨災害に対する意識や日頃の備えについてお伺いするために実施。
- 対象市町村 三沢市、東北町、七戸町、六ヶ所村
- 調査実施期間 令和4年9月12日（月）～令和4年9月30日（金）
- 調査方法 対象市町村において、浸水想定区域を含む地区から一部地区を抽出し、アンケート用紙を郵送・返信頂いた。

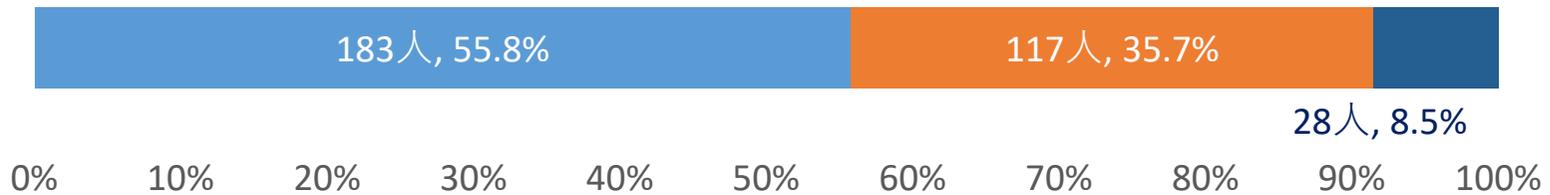
調査票(アンケート用紙)の配布及び回収状況

市町村	三沢市	東北町	七戸町	六ヶ所村	市町村不明	合計
配布数(A)	473	415	115	64	-	1,067
回収数(B)	128	106	27	15	52	328
回収率(B/A)	27.1%	25.5%	23.5%	23.4%	-	30.7%

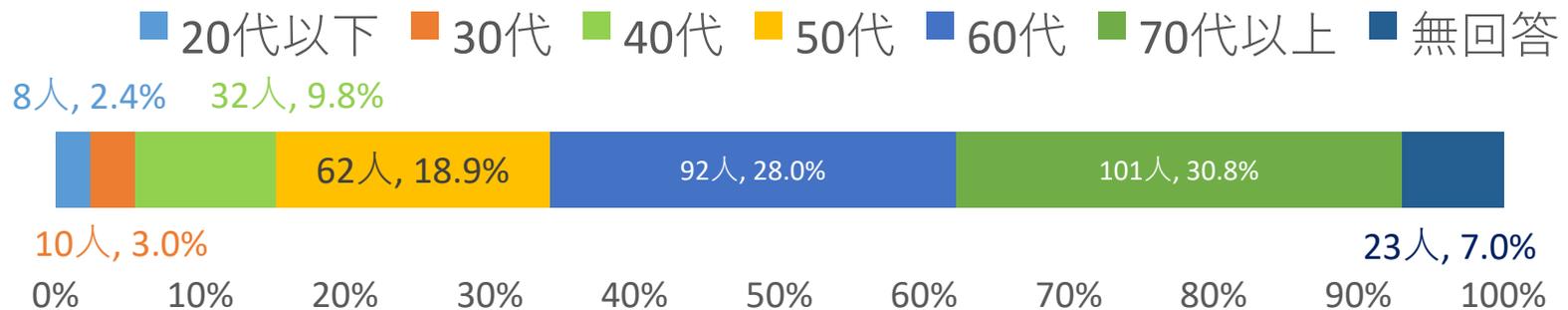
回答者の属性

■ 男性 ■ 女性 ■ 無回答

■ 性別
(N328)

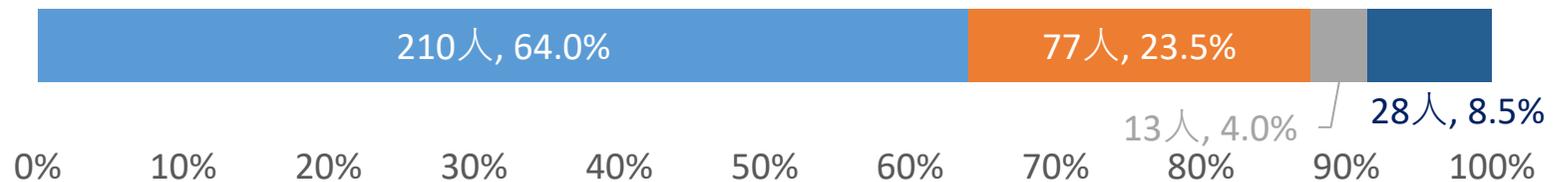


■ 年代
(N328)

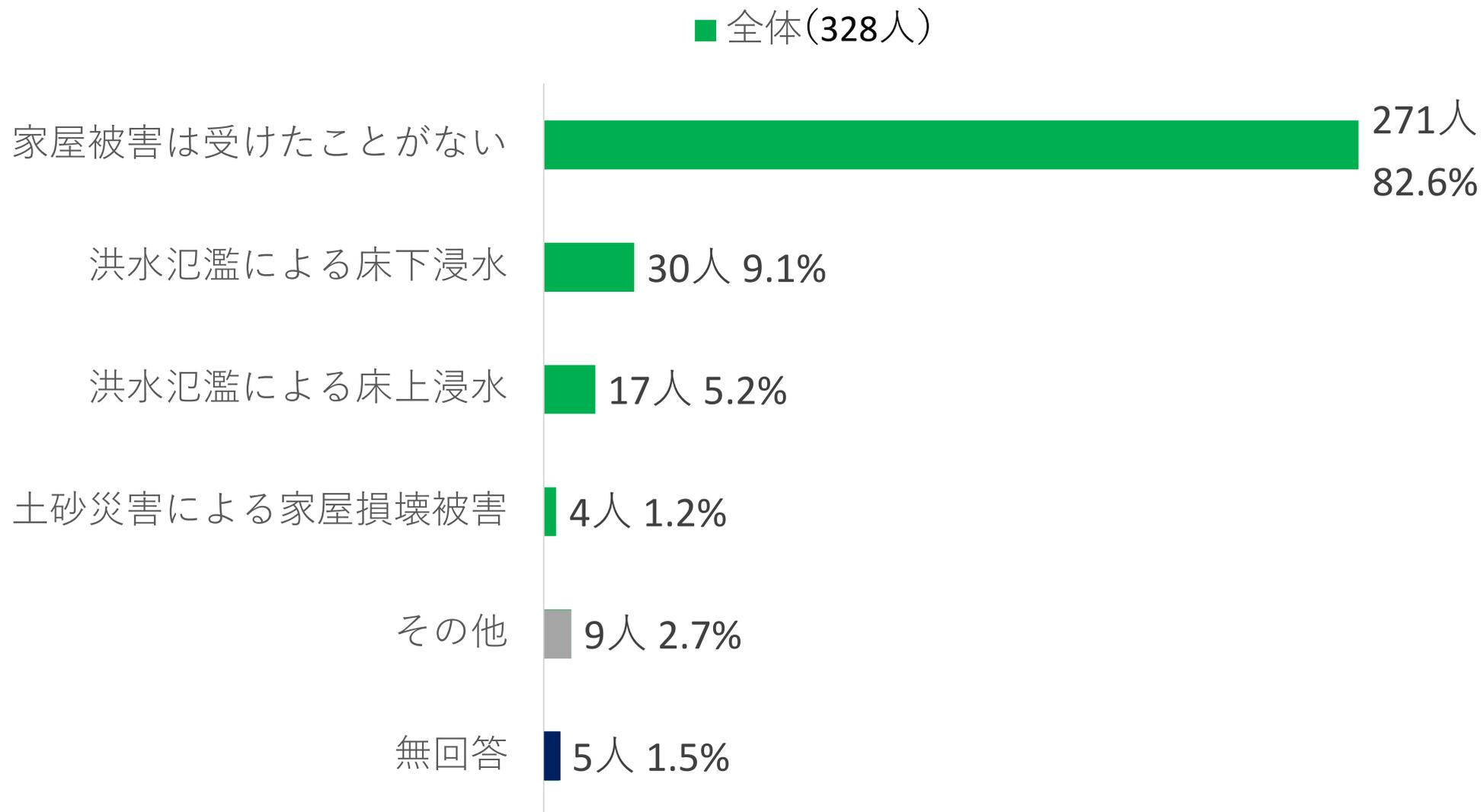


■ 家族構成
(N328)

■ 家族と同居 ■ 一人暮らし ■ その他 ■ 無回答



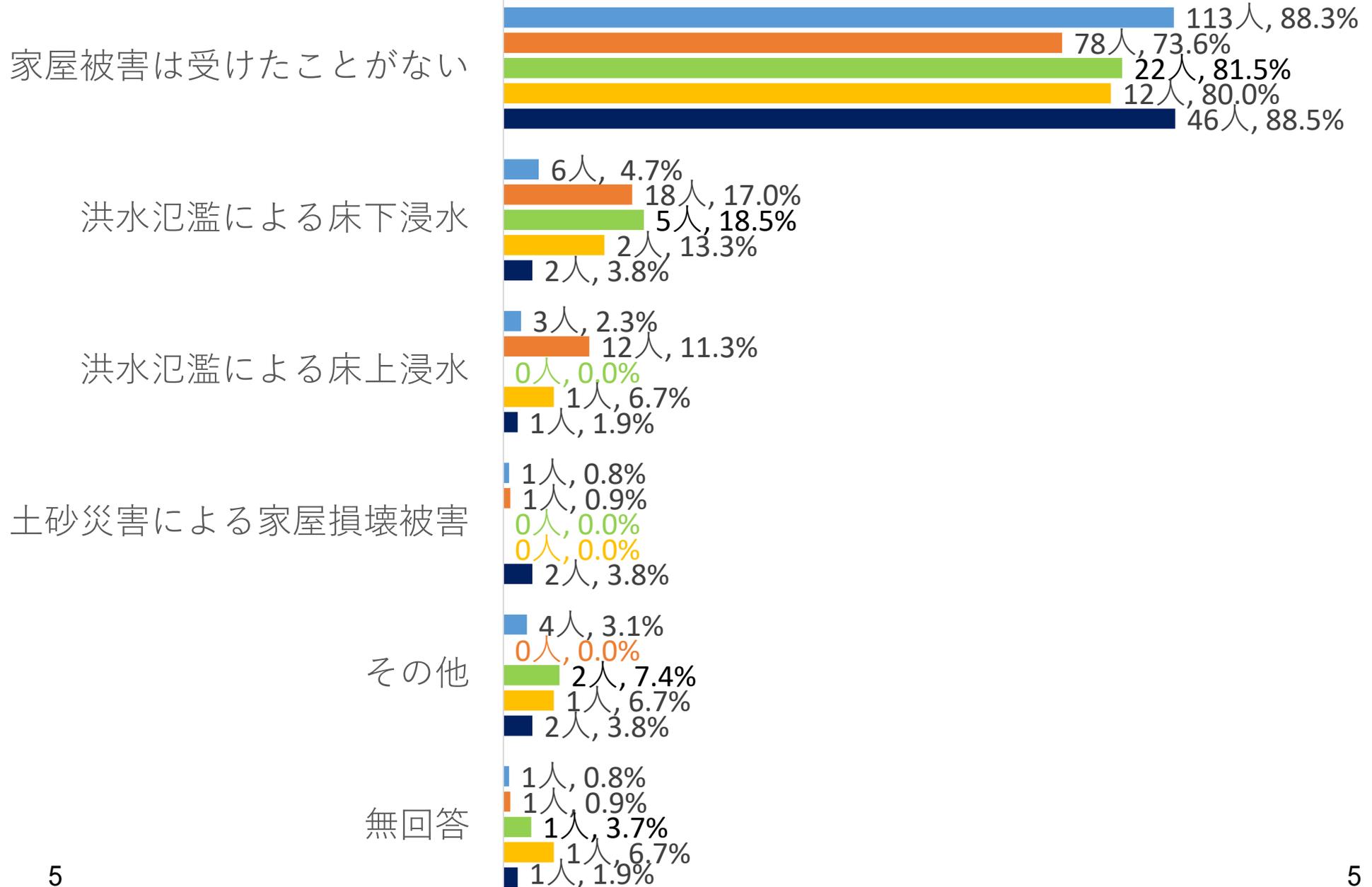
設問1.今お住まいの地域で過去の洪水・土砂災害による家屋被害の経験について教えてください。（複数回答可）



4 「家屋被害は受けたことがない」の回答が一番多く、全体の約80%にのぼる。 4

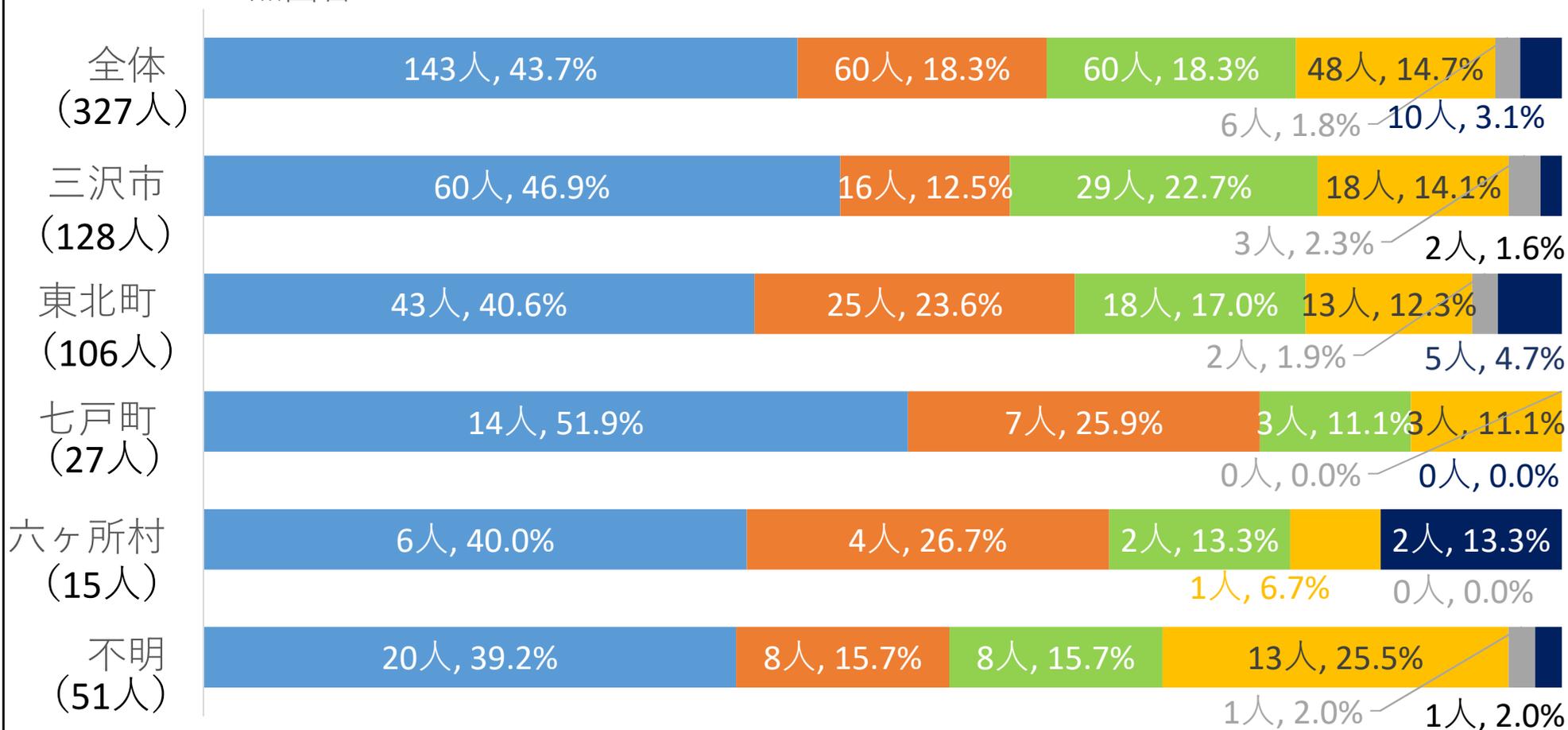
設問 1.今お住まいの地域で過去の洪水・土砂災害による家屋被害の経験について教えてください。（複数回答可）

■ 三沢市 (128人) ■ 東北町 (110人) ■ 七戸町 (30人) ■ 六ヶ所村 (17人) ■ 市町村不明 (54人)



設問7.ハザードマップを知っていますか。(単一回答)

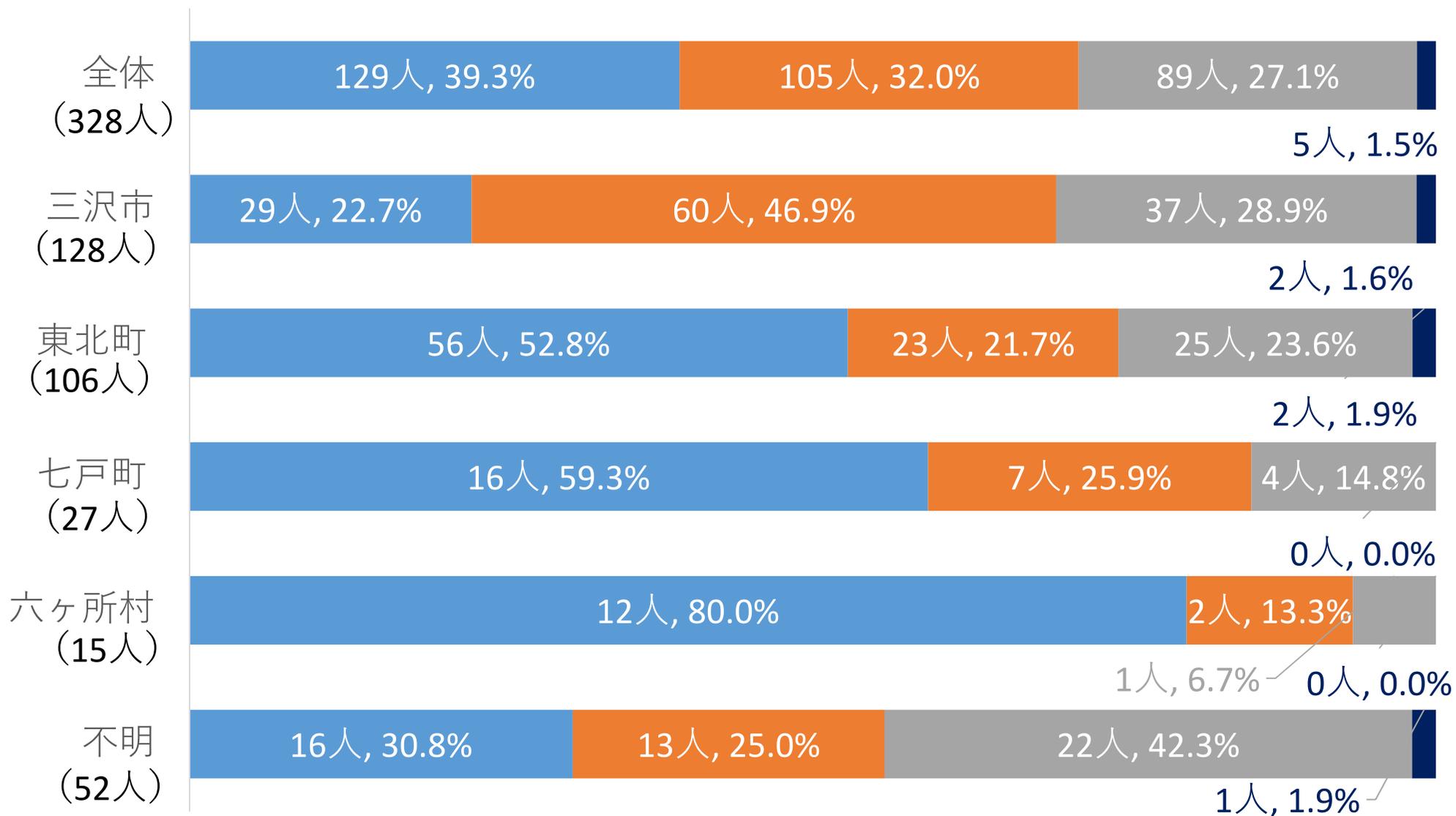
- 家にあり、自宅が洪水等の被害が想定される有無について把握している
- 家にはあるが詳細はわからない
- 家にはないがホームページに掲載されていることを知っている
- 知らない、見たことがない
- その他
- 無回答



ハザードマップについて、各市町村約40%～50%の人は「家にあり、自宅が洪水等の被害が想定される有無を把握」一方、「知らない、見たことがない」は各市町村約7%～14%となっている。

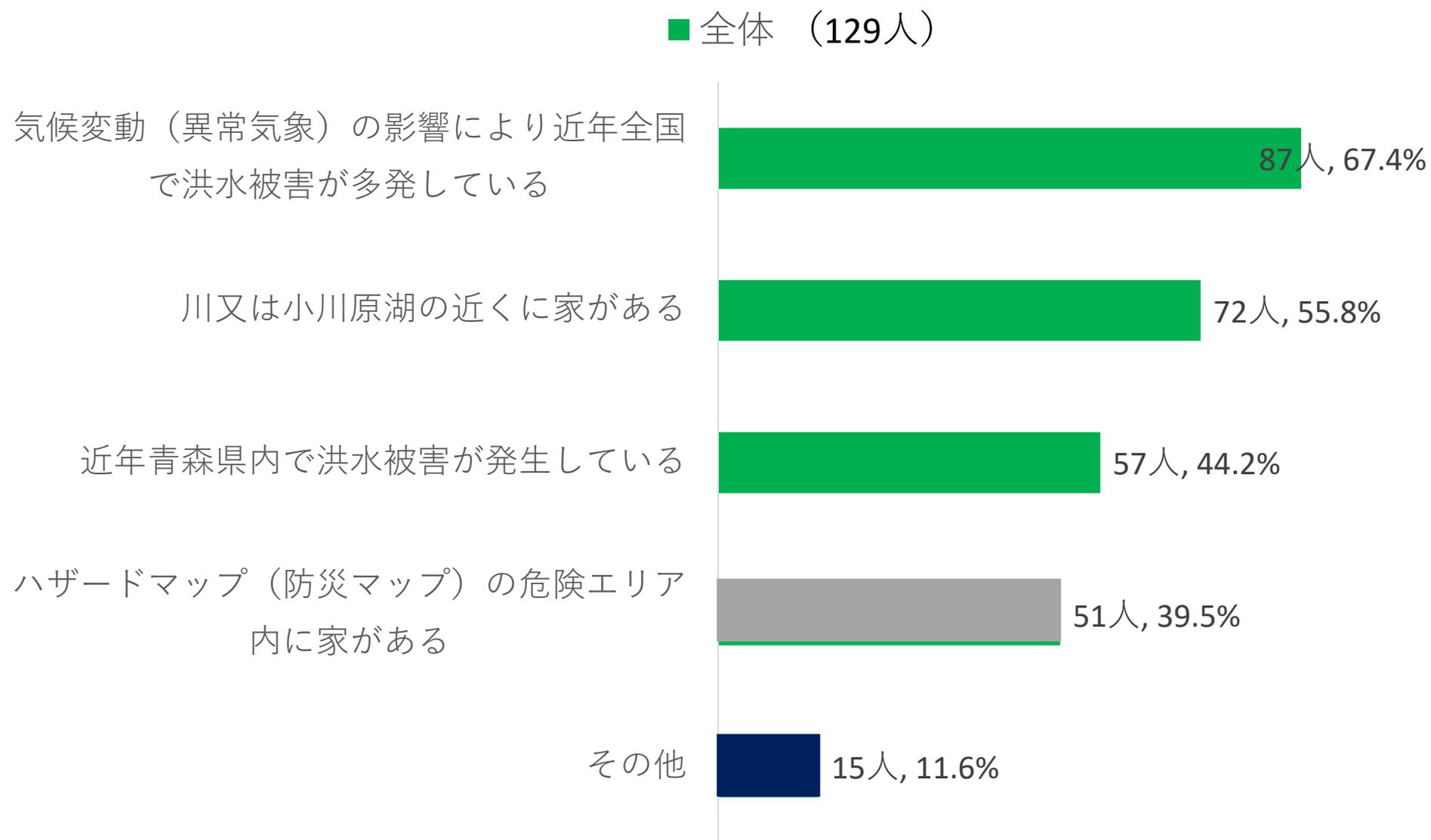
設問3.今後洪水により家屋被害を経験すると思いますか。(単一回答)

■ 思う ■ 思わない ■ わからない ■ 無回答



「家屋被害を経験すると思わない」は、六ヶ所村の約13%～三沢市の約47%と開きがある。

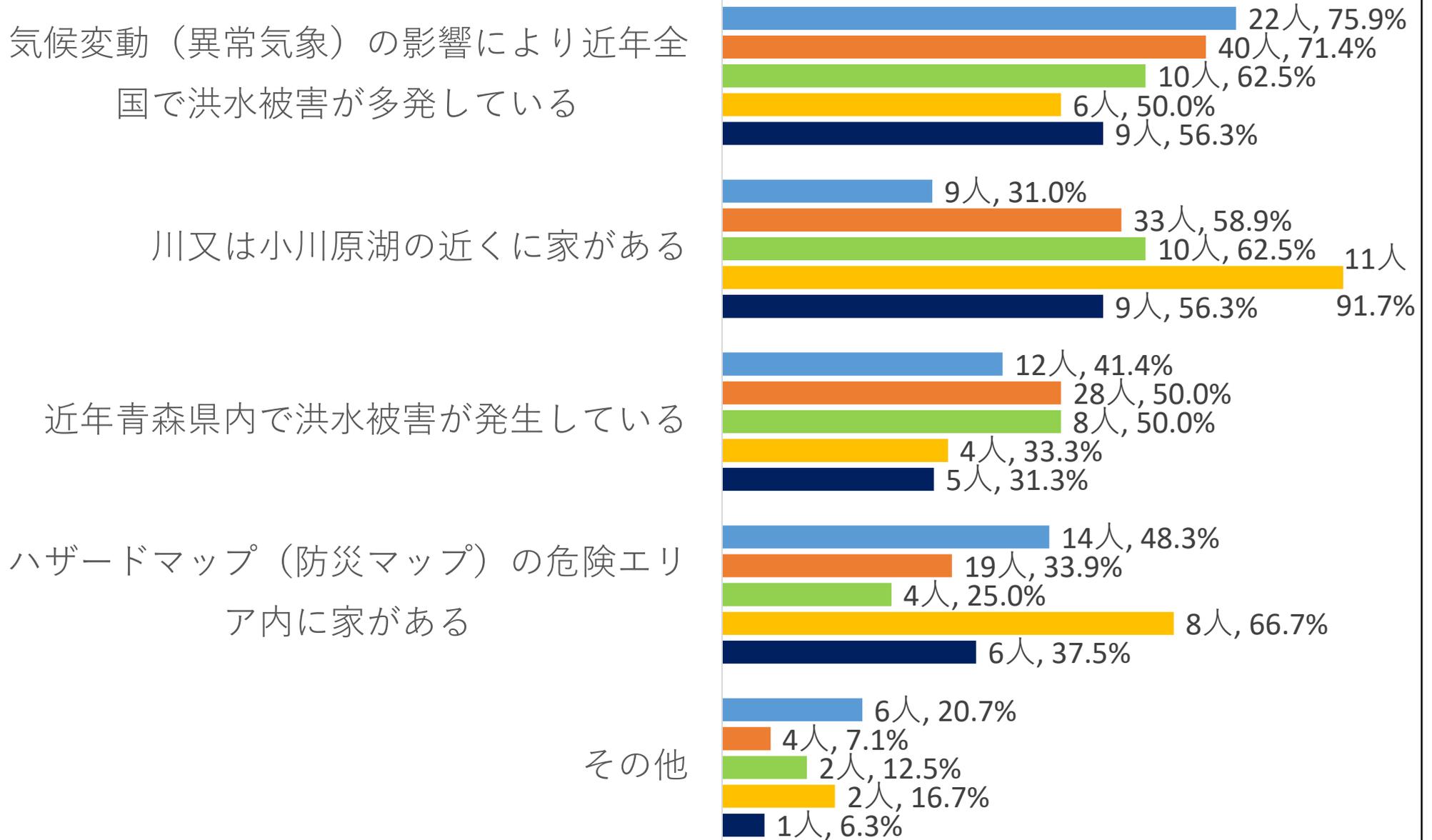
設問4. (設問3で「思う」と答えた方) なぜそう思いますか。(複数回答可)



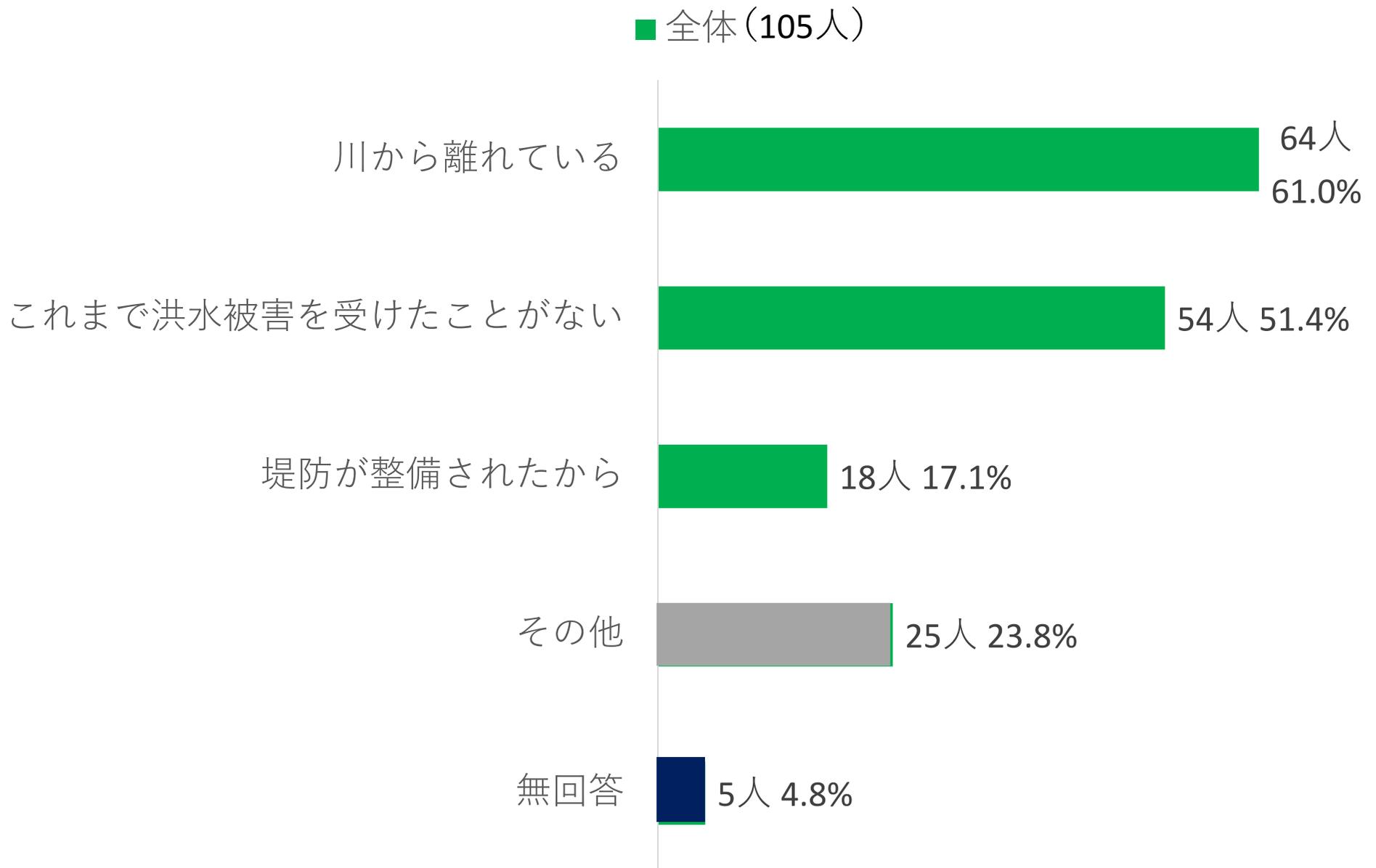
「気候変動（異常気象）の影響により近年全国で洪水被害が多発している」を懸念している人が最多

設問4. (設問3で「思う」と答えた方) なぜそう思いますか。(複数回答可)

■ 三沢市 (63人) ■ 東北町 (124人) ■ 七戸町 (34人) ■ 六ヶ所村 (31人) ■ 市町村不明 (30人)

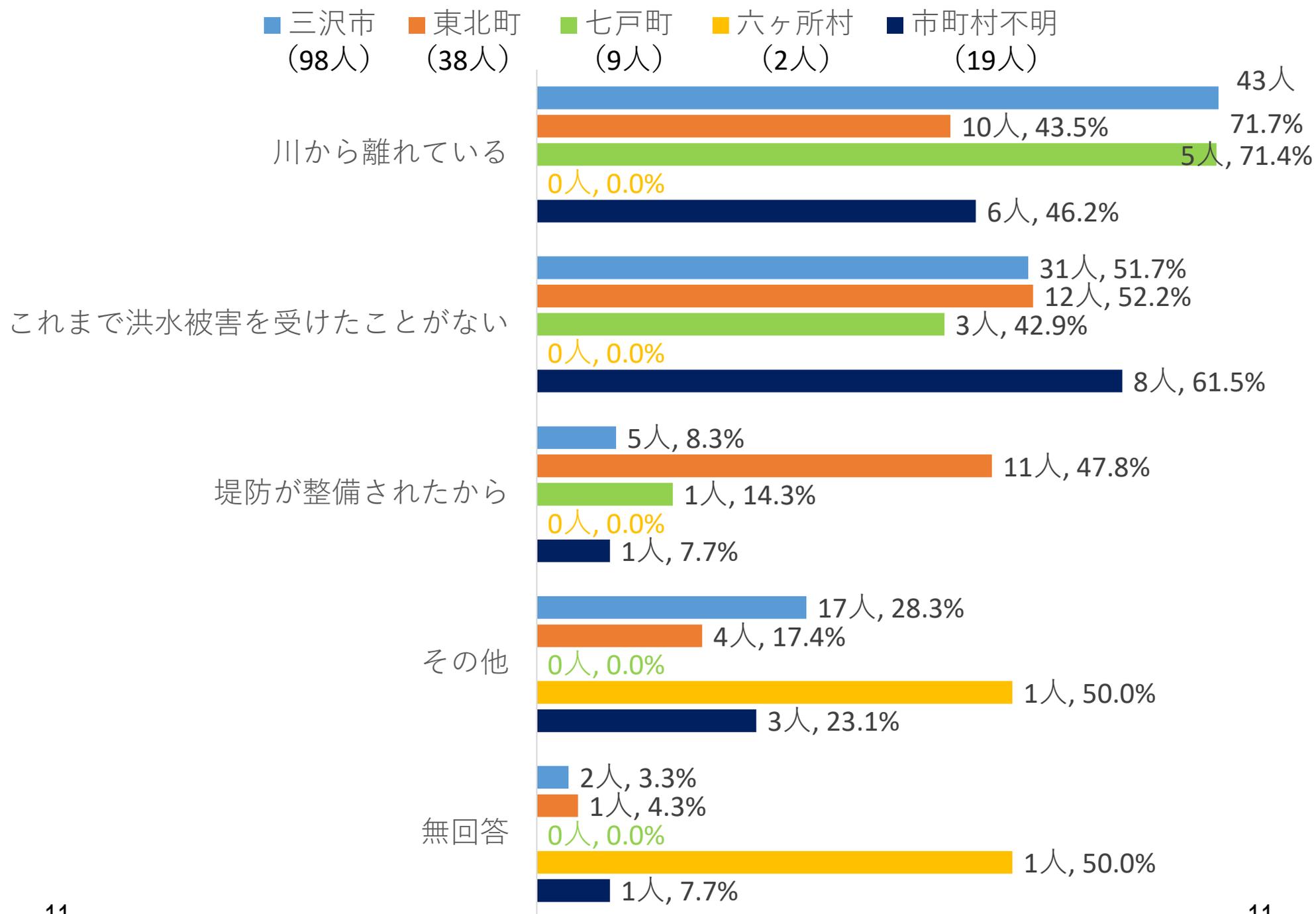


設問5. (設問3で「思わない」と答えた方) なぜそう思いますか。(複数回答可)



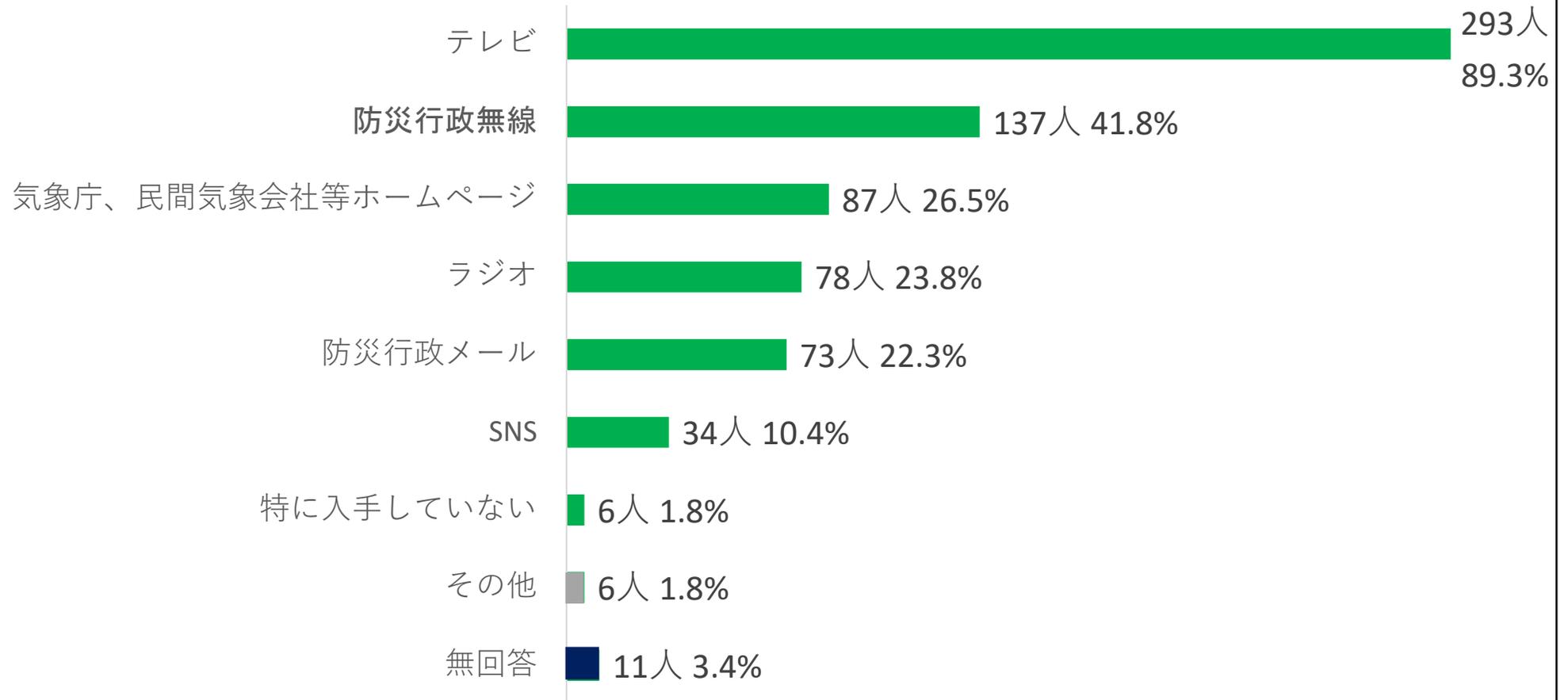
アンケート対象は、浸水想定区域内又は隣接する地区だが「川から離れている」が最多。
次いで「これまで洪水被害を受けたことがない」が多い

設問5. (設問3で「思わない」と答えた方) なぜそう思いますか。(複数回答可)



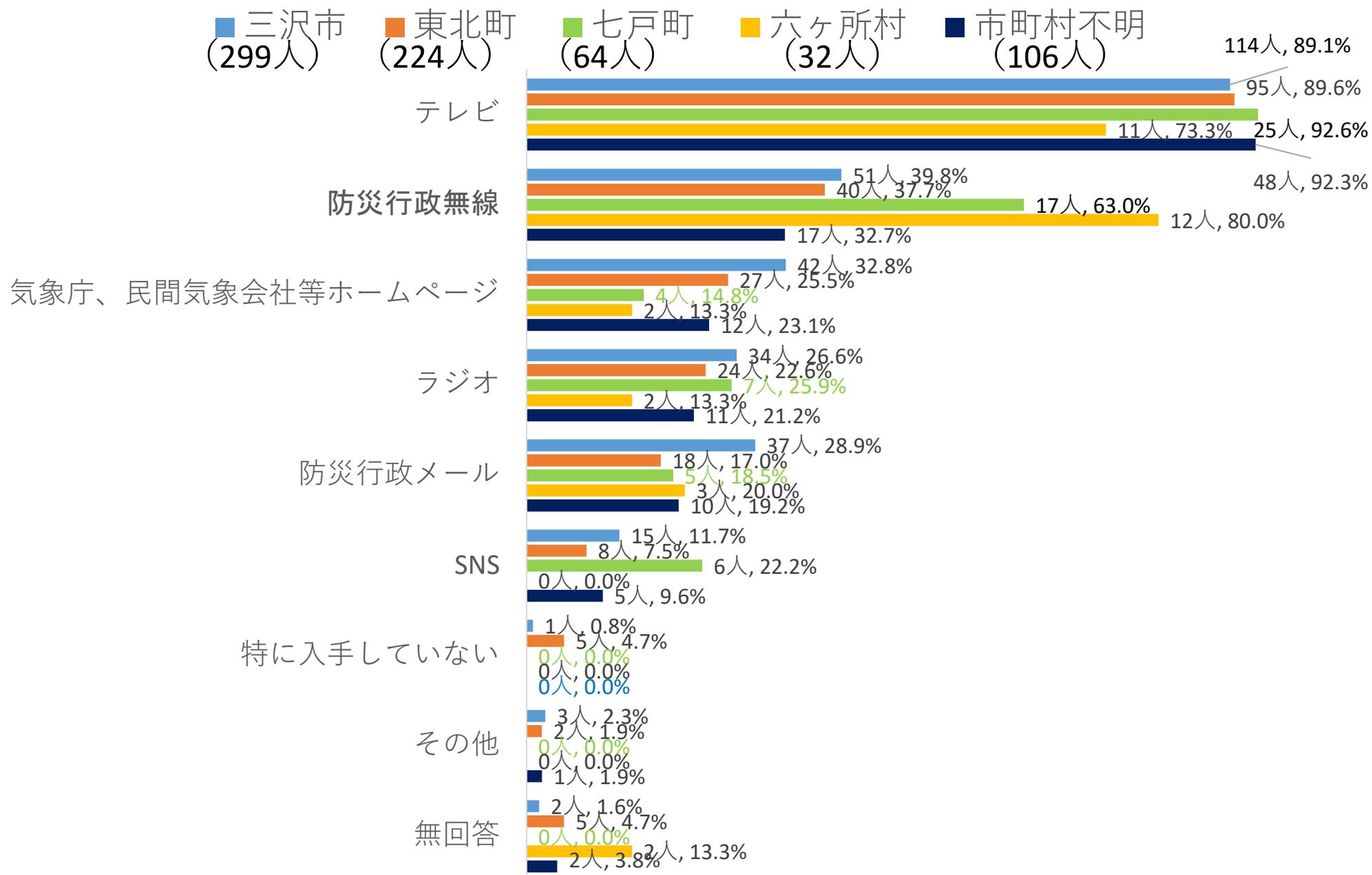
設問6.台風・大雨時の気象情報や防災情報の入手方法はなんですか。(複数回答可) 0

■ 全体 (328人)



12 「テレビ」が最多。次いで「防災行政無線」が多い。

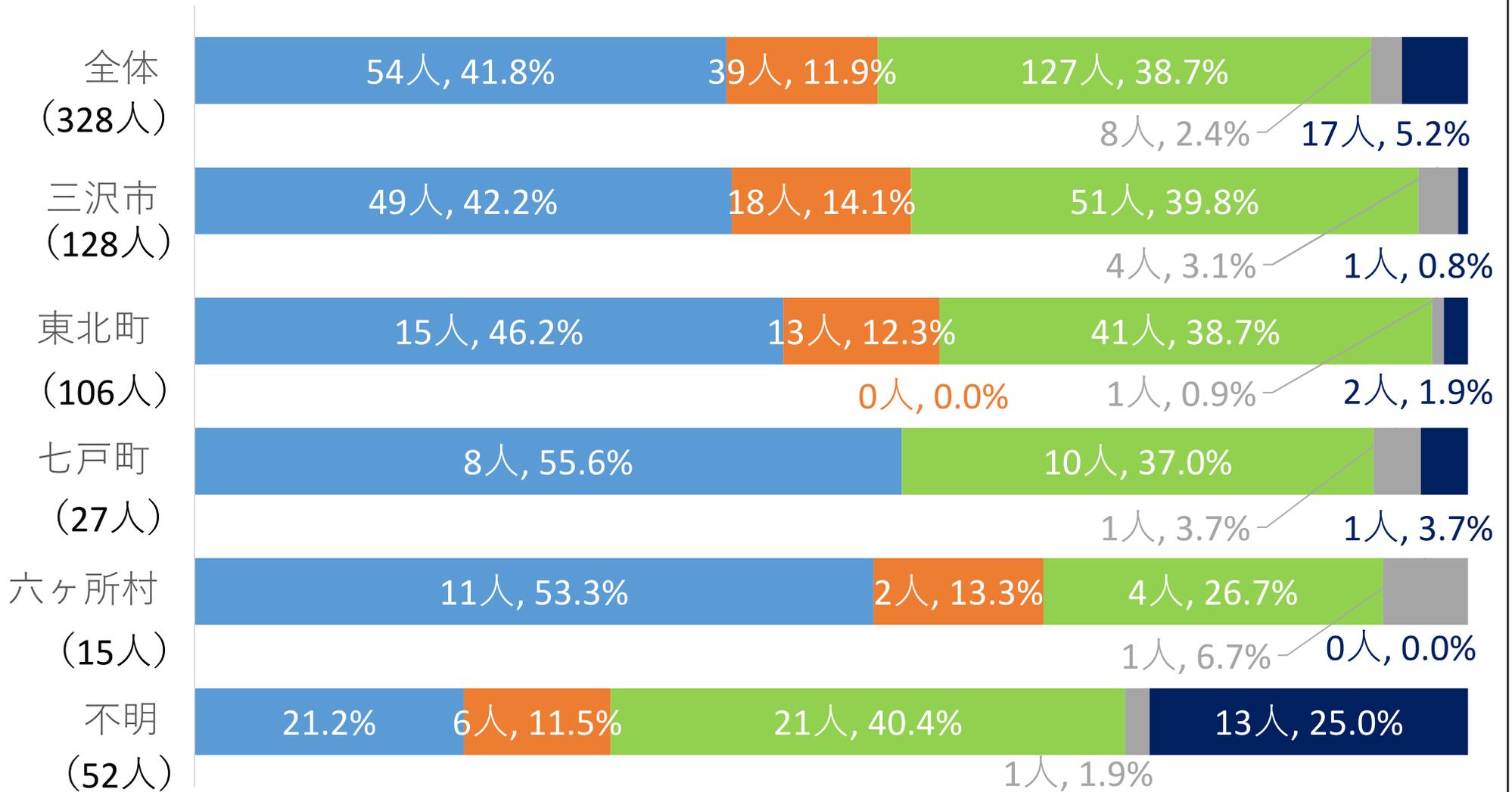
設問6.台風・大雨時の気象情報や防災情報の入手方法はなんですか。（複数回答可）



13 六ヶ所村では「テレビ」より「防災行政無線」が多い。

設問12. 今後、洪水対応の避難訓練を実施する場合、参加しようと思いますか
(単一回答)

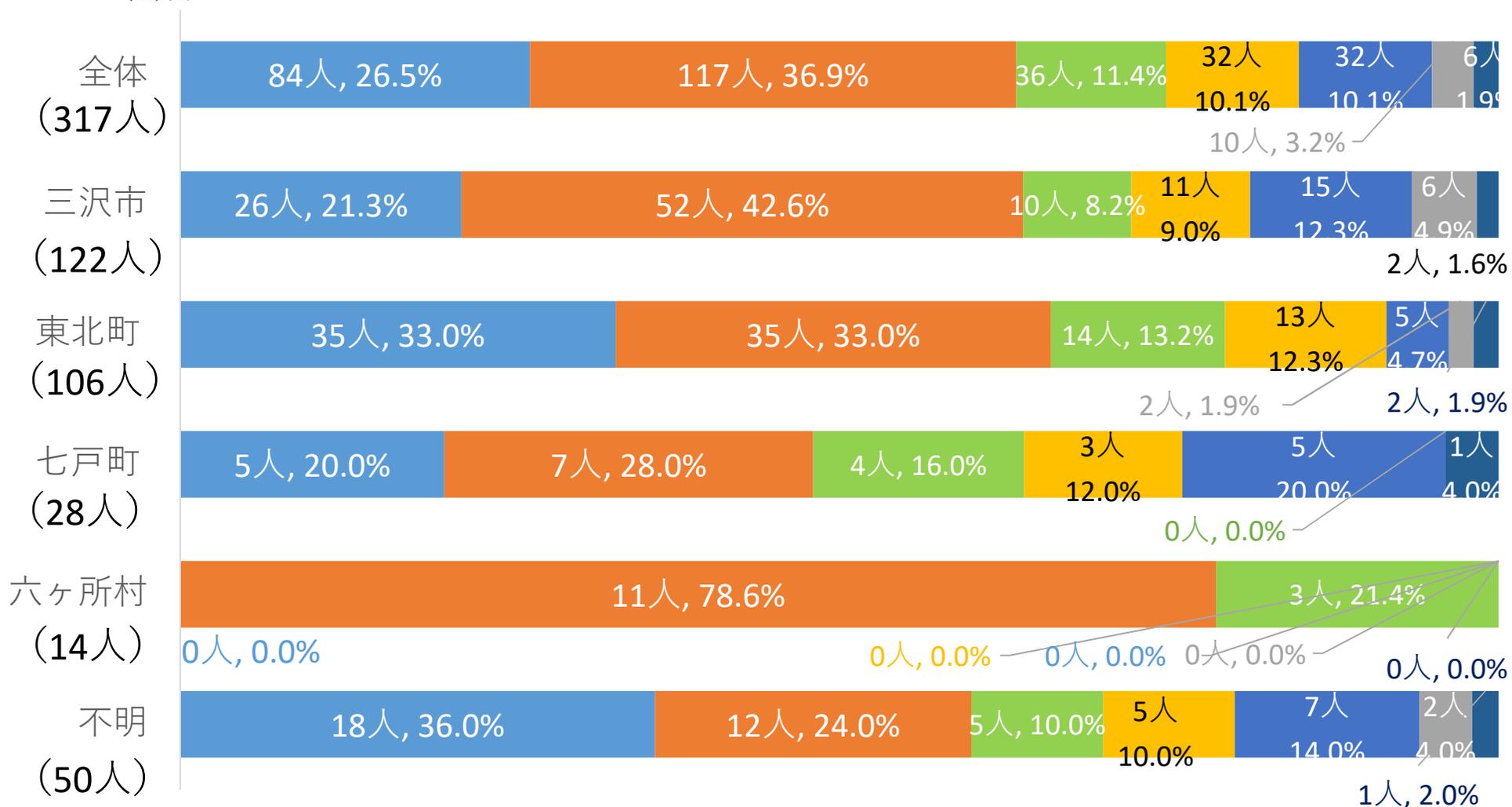
■ 参加しようと思う ■ 参加しようとは思わない ■ 分からない ■ その他 ■ 無回答



「参加しようと思う」は、約42%～56%。
 「参加しようとは思わない」は、七戸町では0人。他市町村は約12%～14%。 14

設問8.洪水氾濫の恐れがある場合、避難場所は決めていますか。(単一回答)

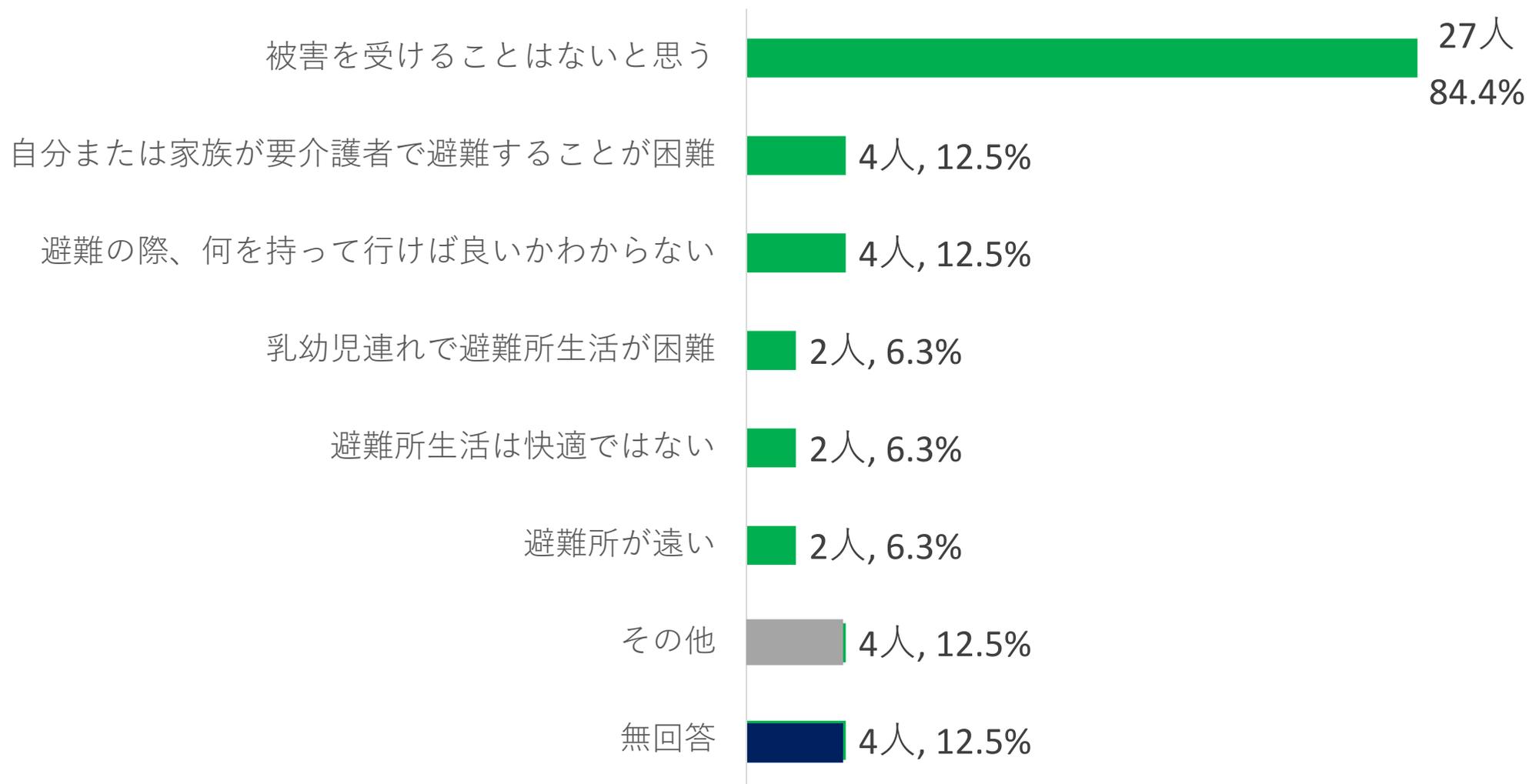
- 決めていない
- 避難所に行くことにしている
- 親戚・知人宅に行くことにしている
- 自宅の2階以上に避難することにしている
- 避難することはない
- その他
- 無回答



六ヶ所村では「避難することはない」が、0人。
 その他の市町は「避難することはない」が20%～5%。

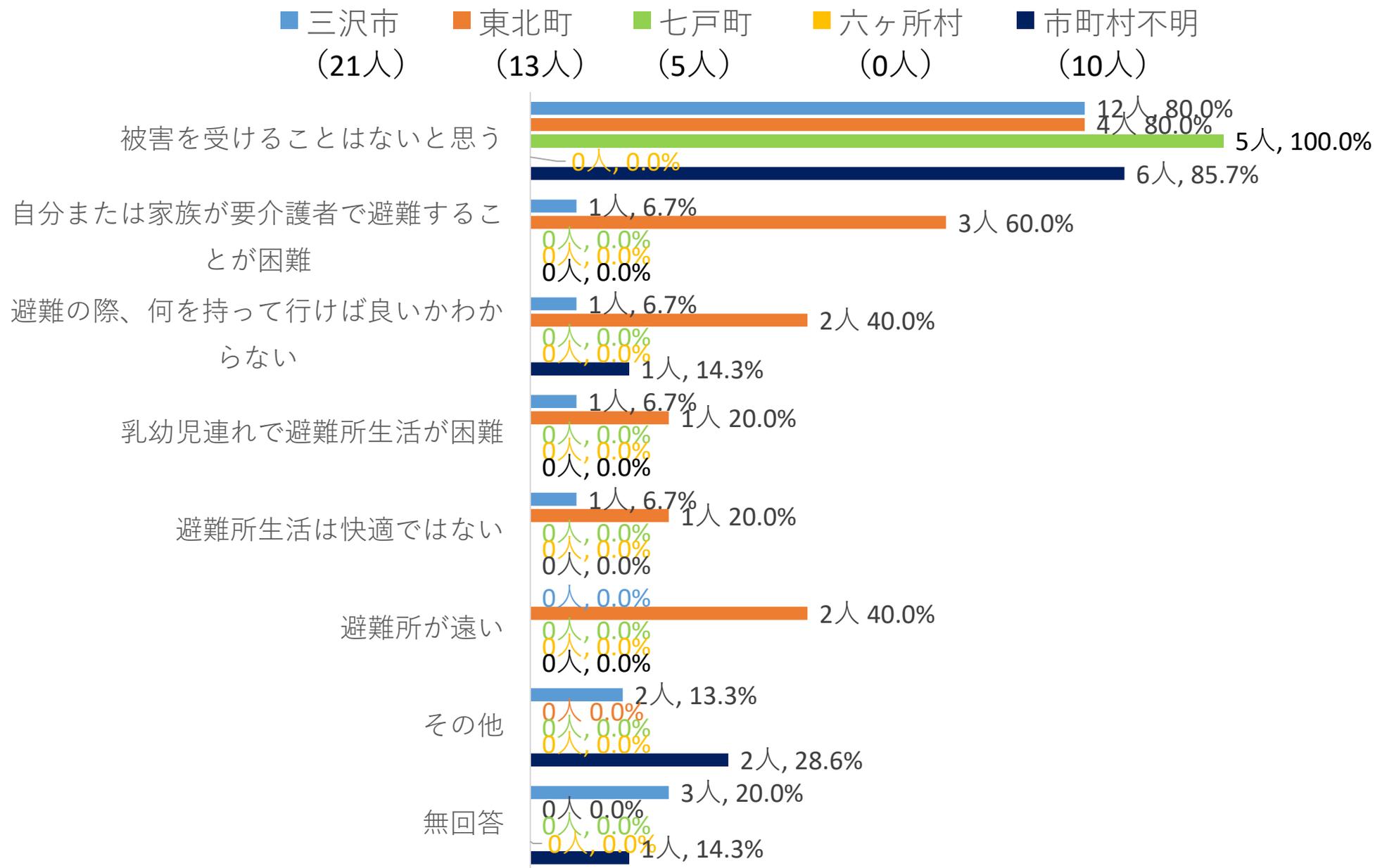
設問9.設問8で「避難することはない」を選択した方へお聞きします。（複数回答可）
なぜ避難することはないと思いますか。

■ 全体（32人）



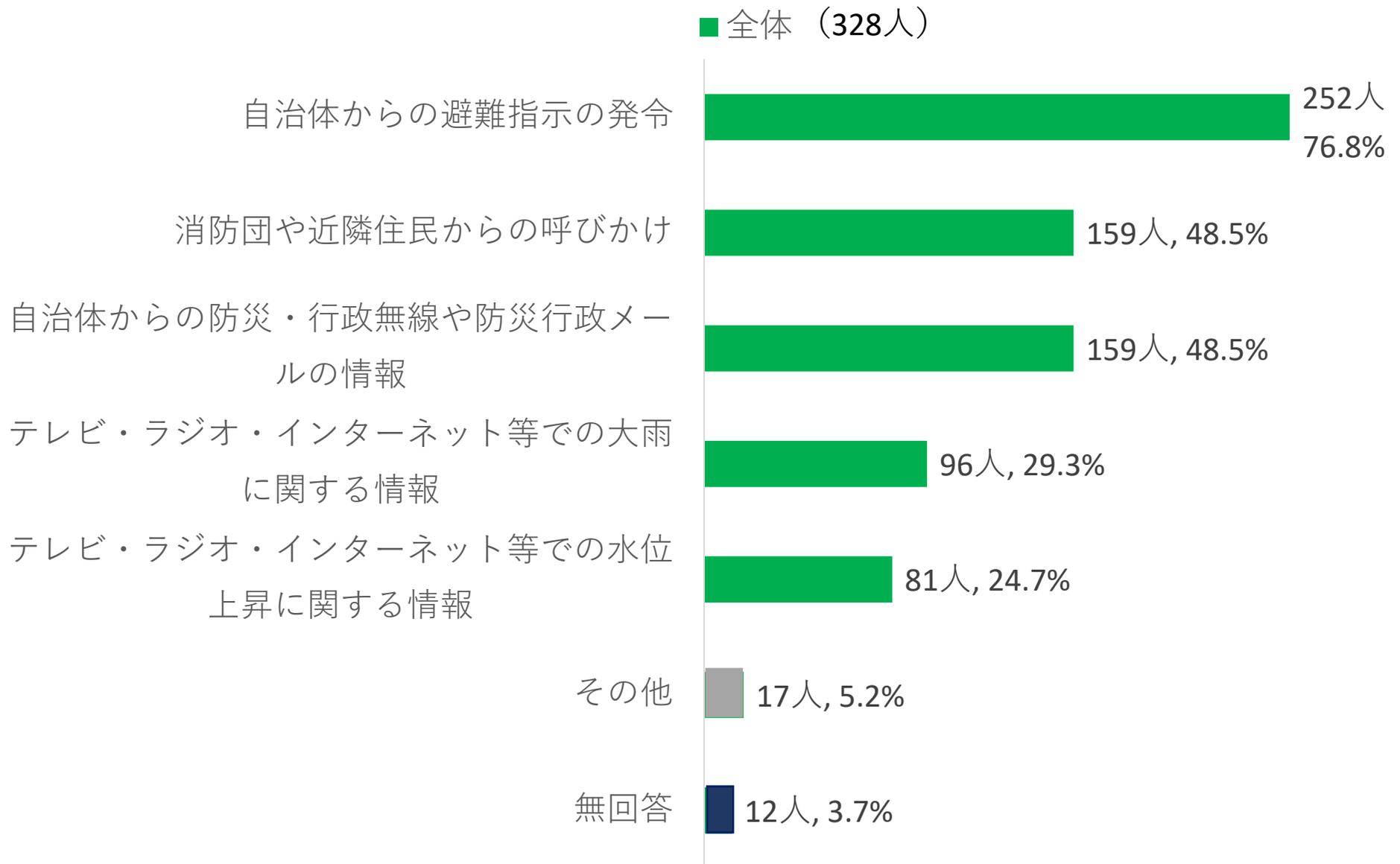
16 「被害を受けることはないと思う」が最多で約85%。

設問9.設問8で「避難することはない」を選択した方へお聞きします。（複数回答可）
なぜ避難することはないと思いますか。



17 「被害を受けることはないと思う」は、六ヶ所村以外の市町で80%～100%。

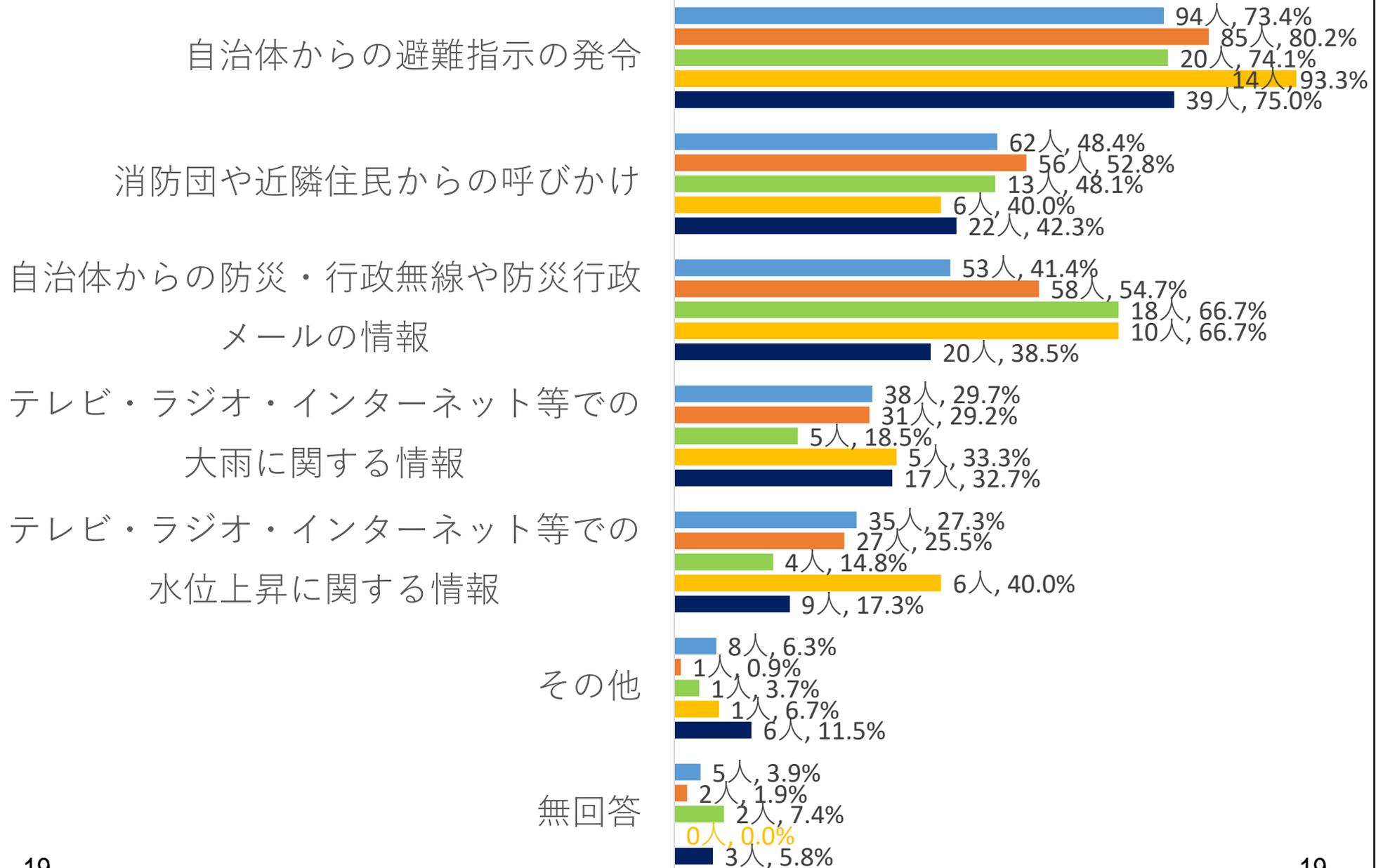
設問10.大雨や洪水に関し、どういうきっかけで避難しようと思いますか。
(複数回答可)



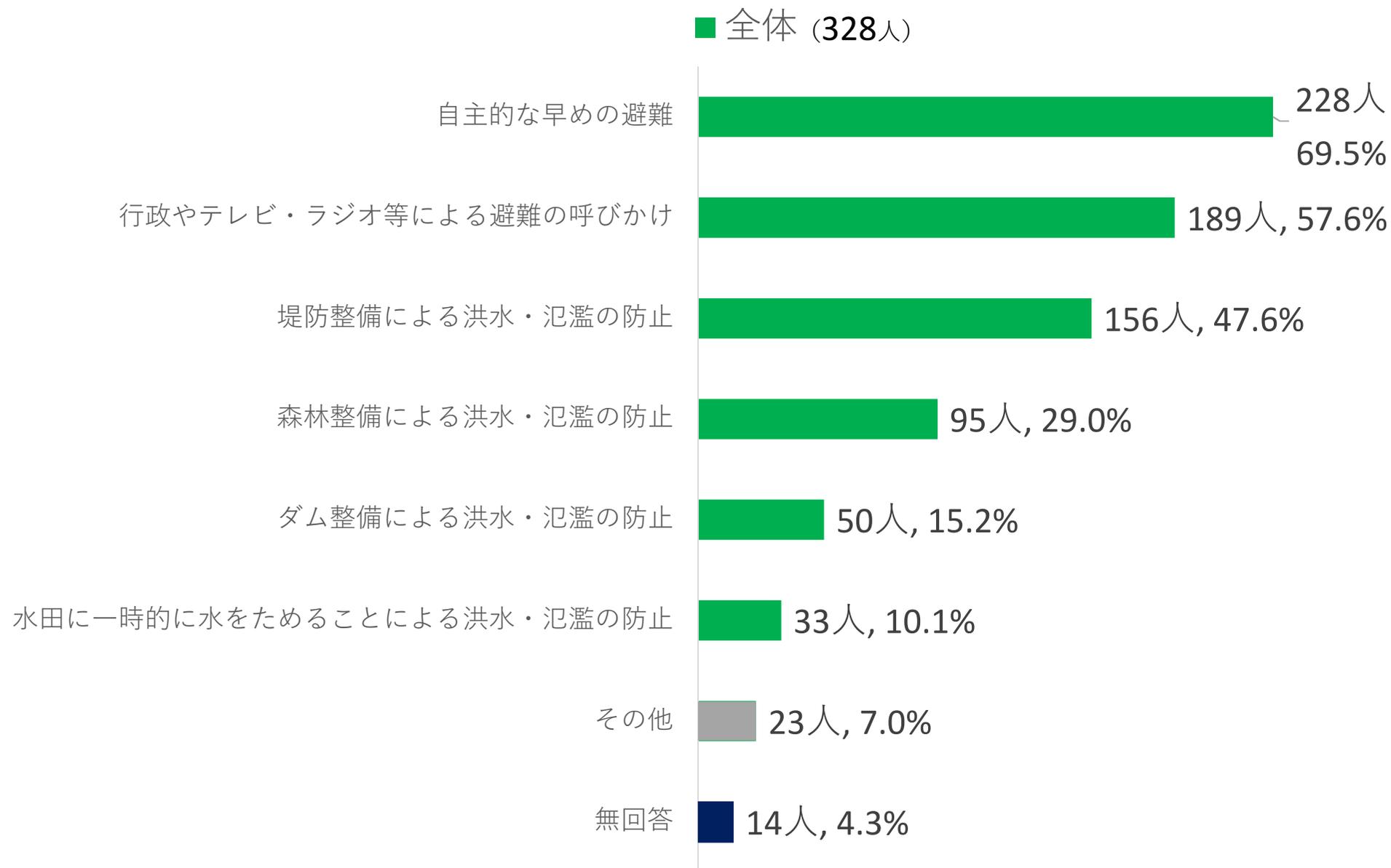
避難するきっかけは、他者からの呼びかけ等が多い。

設問10.大雨や洪水に関し、どういうきっかけで避難しようと思いますか。
(複数回答可)

■ 三沢市 (295人) ■ 東北町 (260人) ■ 七戸町 (63人) ■ 六ヶ所村 (42人) ■ 市町村不明 (116人)



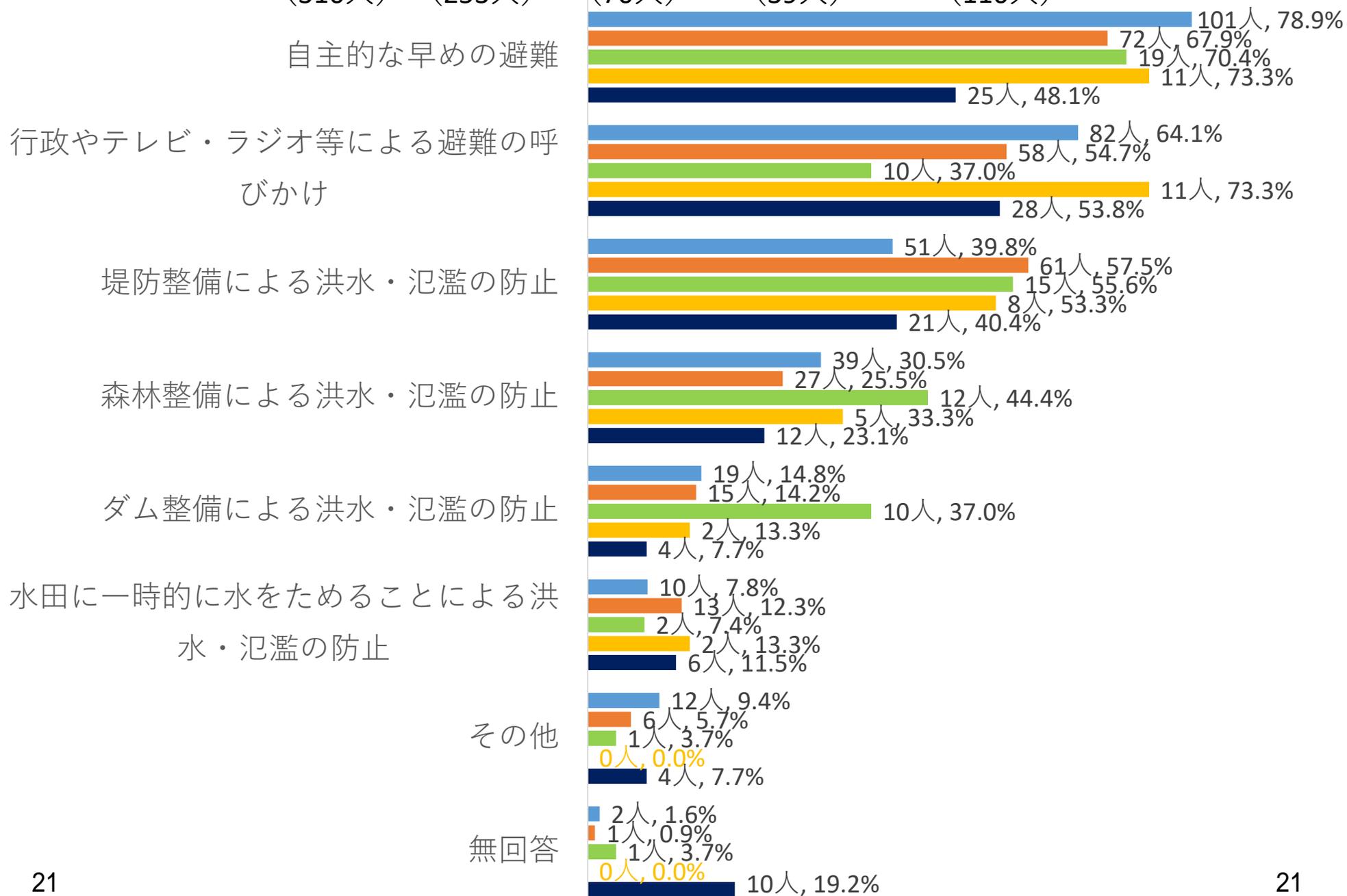
設問11.洪水被害を受けないために必要なことは何だと思えますか。(複数回答可)



洪水被害を受けないために必要なことは「自主的な早めの避難」が最多。

設問11.洪水被害を受けないために必要なことは何だと思えますか。(複数回答可)

■ 三沢市 (316人) ■ 東北町 (253人) ■ 七戸町 (70人) ■ 六ヶ所村 (39人) ■ 市町村不明 (110人)



青森県東北町 マイ・タイムライン講習会

- 青森県東北町において、住民が洪水時の円滑な避難を行うためのマイ・タイムラインを作成する講習会が開催されました。
- 東北町から「防災情報の発信」についての説明、高瀬川河川事務所から「近年の水害発生状況と河川情報の入手方法」についての説明、青森地方气象台から「気象とキキクル」についての説明が行われました。
- その後、奈良岡希実子気象予報士を講師として、参加者一人一人が洪水ハザードマップ、家庭の状況、避難先等を確認しながらマイ・タイムラインを作成することができました。

【日 時】令和4年11月6日（日）13:30～15:30
【主 催】高瀬川大規模氾濫時の減災対策協議会
【講 師】気象予報士（奈良岡希実子氏）

【会 場】東北町コミュニティセンター未来館
【対象者】東北町自主防災組織・東北町職員 他
【講習会参加者】30名

開会あいさつ



東北町長
長久保 耕治 氏

情報提供

『防災情報の発信』 『気象とキキクル』



東北町 総務課
総務課長補佐
野田 武儀 氏



国土交通省
青森地方气象台
水害対策気象官
藤田 淳 氏

『近年の水害発生状況と河川情報の入手方法』

国土交通省 東北地方整備局
高瀬川河川事務所 調査課 専門官 北方 真理子 氏

マイ・タイムライン作成講習



5班に分かれて参加者一人一人がマイ・タイムラインを作成。



講師
気象予報士
奈良岡 希実子 氏

アンケート調査の結果

当日アンケートの回収率は83.3%【25/30(人)】でした。「水害からの逃げ遅れゼロに向けて、マイ・タイムラインは有効だと思いますか？」との問いに96.0%【24(人)】の方から「有効だと思う。」との回答があり、講習会実施により参加者の「命を守る避難行動・大規模水害に対する防災意識」の向上につながりました。

ウェットランド完成説明会

【日 時】 令和4年11月28日（月）10:00～11:40

【説明箇所】 ウェットランド、覆砂予定箇所（旭地区）、七戸川河口部

【主 催】 東北地方整備局 高瀬川河川事務所

【参加者】 約10名

【対象者】 東北町長、東北町議会議員、東北町議会小川原湖環境保全対策特別委員会

- 水環境整備事業の一環として、令和2年度より整備を進めてきた「ウェットランド」が3年の工事期間を経て完成したことから、東北町及び東北町議会へ工事概要を説明する「完成説明会」を開催。
- 説明会では、岡山議長、蛭沢委員長、長久保町長の挨拶の後、高瀬川河川事務所からウェットランド完成に至る経緯や今後の管理計画について説明を行い、施設内を視察した。
- その後、次年度以降整備を予定している覆砂について旭地区にて事業概要説明、七戸川河口部にて現在施工中の河道掘削工事現場の視察を行った。



ウェットランドでの説明の様子



覆砂試験施行箇所視察の様子



七戸川河口部河道掘削工事
視察の様子

【参加者からの意見、質問】

《ウェットランド》

・経年で植物の繁茂や土砂堆積が予想されることから、効果が発揮できるよう適正な維持管理をお願いしたい。

《覆砂》

・以前、覆砂の施工範囲はヘドロのある湖のずっと奥まで検討していると聞いたが本当か？

回答) 湖内にあるヘドロすべてが対象では無く、波浪などによるヘドロの巻き上がりによって水質が影響を受ける範囲を対象としている。

《七戸川河口部掘削》

・今後の砂州撤去については予算を確保して、継続的、計画的にお願いしたい。

《全般》

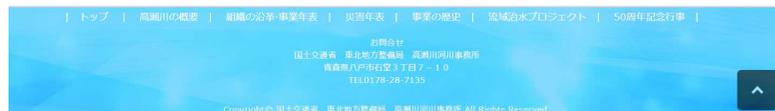
・引き続き、水環境の改善に継続して取り組んで欲しい。

ホームページ、SNSによる広報活動

■ 事務所HPに高瀬川直轄管理50年を記念した特設サイトの開設、Twitterアカウントからの情報発信等、広報活動を広く実施。



高瀬川は昭和47年（1972年）に一級河川指定され直轄管理を開始し令和4年（2022年）で50年を迎えました。高瀬川河川事務所の前身である高瀬川総合開発工事事務所は、むつ小川原総合開発の一環である小川原湖総合開発を担うため発足し、当初は小川原湖及びその周辺地域における洪水や高瀬被害、塩害などの防止を目的とする治水事業と、かんがい用水の補給や都市用水、工業用水の確保を目的とする利水事業を担うものとしてありました。その後、小川原湖総合開発の中止や平成9年に河川法改正で「河川環境の整備と保全」が追加されるなどの社会情勢の変化とともに求められる役割が変わり、平成15年には、事務所名を高瀬川河川事務所へと変更しています。流域で甚大な被害が発生した戦後最大の昭和33年9月洪水と同規模の洪水から皆様の生活や資産を守ることを目的とした治水事業と、「たから湖」と称される小川原湖の周辺環境も含めた地域の貴重な財産を、後世に残し、伝えるべき環境整備事業を実施してきております。事業の実施にあたっては、高瀬川、小川原湖沿川住民の方々、漁業関係者、建設業関係者、及び関係市町村など多くの皆様方にご協力いただいていること、深く感謝申し上げます。現在では海面上昇等の気候変動の影響を踏まえ、あらゆる関係者が協働して流域全体で行う総合的かつ多層的な水災害対策として流域治水プロジェクトに取り組みしており、今後も事業を通じ、地域の皆様の「安全・安心な生活」を守るため邁進していきます。



高瀬川直轄管理50年を記念した特設HP



Twitterによる広報活動の様子